

# 「考え、議論する道德」の実現に向けた授業構想<小・道德>

特別研修員 道德 石井千恵美（小学校教諭）

**主題名** がんばりがつづくのは  
**内容項目** A-(5)希望と勇気、努力と強い意志  
**教材名** 『うまくなりたけれど』

**主題名** 家族できょう力し合うこと  
**内容項目** C-(15)家族愛、家庭生活の充実  
**教材名** 『お母さんのせいきゅう書』

## 授業改善の視点

自分の思いを表現できない児童でも、心情円盤を使うことで自分の思いや考えを表出しやすくする。ノートに心情円盤の記録を残すことで、授業における導入と終末の児童の変容を比較でき、見取りの一助とする。

## 授業改善の視点

役割演技を取り入れることで、登場人物の心情の変化を自分事として捉え、葛藤等を理解しやすくする。また、演じた児童や見ていた児童の双方の考えを話し合わせることで多面的・多角的な理解につなげる。

過程

### 主な学習活動（○発問 ◎中心発問）

導入

#### 1. 本時で扱う道德的価値を想起し、問題意識をもつ。

○頑張ろうと思っても、途中で諦めてしまったことは、ありますか。理由も教えてください。

##### 道德的諸価値についての理解を深めるために

- ・アンケート結果を提示して、問題意識をもたせる。
- ・悩む気持ちをノートの心情円盤と手持ちの心情円盤で可視化させ、導入時の児童の心情を見取る。

**がんばりを続けるために、大切なことを考えよう。**

#### 1. 本時で扱う道德的価値を想起し、問題意識をもつ。

○家族がいてよかったと思うのは、どのような時ですか。理由も考えましょう。

##### 道德的諸価値についての理解を深めるために

- ・アンケート結果を提示することで、家族からしてもらっていることが多いことに気付かせる。

**「家族」で大切なことは、何だろう。**

展開

#### 2. 中心的な教材によって、本時で扱う道德的価値の追求を行う。

- ゆきさんは習字の時間はどんな気持ちでしょうか。  
 ◎ゆきさんは、どうして嫌な気持ちにならなかったのでしょうか。  
 ○諦めないで続けても、上手にならないかもしれないけれど、続けますか。

○みなさんは、ゆきさんのように思えますか。心情円盤で表しましょう。



<ペアで話し合う児童>



<心情円盤を使い自分の考えを表現する児童>

##### 物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるために

- ・心情円盤の色の割合による児童の反応を予想しておき、児童が自分の考えを整理できるような問い返しをする。
- ・交流により心情円盤の色の割合が変わった児童に理由を述べさせることで、多様な考えに触れるようにする。

#### 2. 中心的な教材によって、本時で扱う道德的価値の追求を行う。

- だいすけは、どうして請求書を書いたのでしょうか。  
 ○400円を受け取っただいすけは、どんな気持ちになったのでしょうか。  
 ◎だいすけは、お母さんからの請求書を読んで、どのような気持ちになったのでしょうか。だいすけになりきって考えてみましょう。



<ペアで話し合う児童>



<役割演技をする児童>

○だいすけのお母さんへの気持ちは、どのように変わりましたか。

##### 物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるために

- ・児童が自分の考えを明確にして整理できるよう、発言や行為の理由を問い返す。
- ・演じた児童、見ていた児童双方に考えを交流させることで、多面的・多角的な考えをもてるようにする。

終末

#### 3. 本時で扱った道德的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○「うまくなりたい」、そのためにどのような気持ちをもてばいいでしょうか。

##### 自己の生き方についての考えを深めるために

- ・導入での問題意識を問い直したり、教材名に戻ったりして自己を振り返らせる。
- ・お互いの考えを共有させることで、見つめ直したり深めたりして自己を振り返らせる。

#### 3. 本時で扱った道德的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○これから家族の一員として、どのような気持ちで生活していきますか。

##### 自己の生き方についての考えを深めるために

- ・導入で捉えた家族への思いを振り返らせ、これからはどのような気持ちで家族の一員として生活していくかを考えさせる。
- ・お互いの考えを共有させることで、見つめ直したり深めたりして自己を振り返らせる。

# 道徳科学習指導案

平成30年10月 第3学年 指導者 石井 千恵美

1 主題名 家族できょうりよくし合うこと 内容項目Cー(15) 家族愛、家庭生活の充実

2 教材名 「お母さんのせいきゅう書」(出典:日本文教出版)

## 3 主題設定の理由

### (1) ねらいとする道徳的価値について

家庭は、児童にとって最初に集団生活を学ぶ場である。そして、この時期の家庭生活は、児童にとって人間形成の大切な基盤となる。この時期に児童が自分なりにできることで家庭生活に貢献すれば、家族のために役立つ喜びを実感できるようになる。その中で、児童自らが家庭生活におけるかけがえのない家族の一員であることの自覚を深めることによって、家族みんなと協力し合って楽しい家庭を作っていこうとする態度を育てていくことが大切である。

### (2) 児童の実態について

この時期の児童は、活動的である反面、甘えや自己中心性がまだ残っており、家族が自分にしてあげることを当たり前のように受け取るばかりで、家族の愛情に気付かないことがある。しかし、児童はそれぞれの家庭において、内容の差はあっても比較的良好に手伝いをしている。家族のことを考えて進んで取り組んでいる児童、言われるがまま仕方なくする児童など、手伝いをする理由については様々である。このような児童の実態を踏まえて、本教材により、家族にとって自分が重要な存在であるということに自覚し、家族の一員として家庭生活により積極的に関わろうとする態度を育てていきたい。

### (3) 教材について

本教材は、二つの場면을対比する形で構成されている。だいすけが母親に対して請求書を渡す場面と母親がだいすけに請求金額400円と0円の請求書を示す場面である。そこには、無邪気に自分の働きに対して報酬を求めようとする子供の気持ちと、母親の子供に対する深い愛情や家庭で働くことの意味が表現されている。母親は、子供に対して無償の愛が家庭生活を支えていることに気付かせようとしている。楽しい家庭を作るためには家族の一員として相互に協力し家庭生活に貢献していくことが大切であるということに理解させることができる教材である。

## 4 指導方針

### ○本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつために

- ・問題意識をもたせるため、家族のよさについて自由に意見を出させる。
- ・振り返りにつなげられるように、出された意見に対する理由を問い、受け身が多いことに気付かせる。

### ○中心的な教材によって、本時で扱う道徳的価値の追求を行うために

- ・母親からの請求書を読んだだいすけの気持ちを吹き出しに書かせることでねらいに迫れるようにする。
- ・母親からの請求書を読んだだいすけが、どのように思ったかについて、役割演技をさせることで、だいすけの気持ちの変容を捉えさせる。
- ・役割演技では、見ていた児童と表現した児童が話し合うことによって、だいすけの心情の変化などについて深く考えられるようにする。

### ○本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返るために

- ・導入で捉えた家族に対する思いを振り返り、自己の思いを見つめ直させる。
- ・児童同士の考えを共有させることで、見つめ直したり深めたりして自己を振り返らせる。

## 5 本時の展開

### (1) ねらい

役割演技により、母親からの請求書を見ただいすけの気持ちを考えることを通して、家族の一員として進んで楽しい家庭を作ろうとする態度を育てる。

### (2) 準備

教師:教科書、デジタル教科書、掲示資料、400円、請求書、プラカード(役割演技用)

児童:教科書

(3) 展開

学習活動と発問	時間	予想される児童の反応	指導上の留意点
<p>1 問題意識をもつ。 ○家族がいてよかったと思うのは、どのような時ですか。理由も考えましょう。 ・アンケート結果の提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>「家族」で大切なことは、何だろう</p> </div>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事や洗濯をしてくれる時。 →自分ではできないから。</li> <li>・好きな物などを買ってもらう時。 →お金を持っていなくて買えないから。</li> <li>・勉強を教えてもらう時。 →分らないままだと困るから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●受け身的な意見も受容的に受け止め、振り返りにつなげられるようする。</li> <li>●アンケート結果を見たり、理由を聞いたりすることで、家族にたくさんのかんことをしてもらっていることに気付かせる。</li> </ul>
<p>2 デジタル教科書で教材文を視聴し、話し合う。 ○だいすけは、どうして請求書を書いたのでしょうか。 ・「請求書」の意味の確認 請求書：代金の支払いを請求するために出す文書 ○400円を受け取っただいすけは、どのような気持ちになったでしょう。 ◎だいすけは、お母さんからの請求書を読んで、どのような気持ちになったでしょう。だいすけになりきって考えてみましょう。 【役割演技】 児童：だいすけ 教師：母親 ・机の上に請求金額400円と母親の請求書を置き、見ただいすけの気持ちを演じさせる。 【問い返し(◇)】 ◇なぜ0円なのでしょう。 ◇なんでお母さんは請求書を書かないのですか</p>	25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お手伝いをしたから、たまにはお金(ご褒美)をもらいたい。</li> <li>・貰えたらラッキーだな。</li> <li>・欲しい物があるから、お手伝いをしてお金を貯めたい。</li> <li>・400円ならくれるかな。</li> <li>・また請求書を書こう!</li> <li>・やったー!ラッキー!</li> <li>・本当に貰えると思わなかった。</li> <li>・お母さん、ごめんなさい。</li> <li>・請求書なんか、書かなければ良かった。</li> <li>・お母さん、なぜ0円と書いたの?</li> <li>・お母さんは、僕のためにこんなに働いてくれていた。ありがとう。</li> <li>・400円を返そう。お母さんごめん。このお金は受け取れないよ。</li> <li>・ぼくは、なんてことをしてしまったのだろう。ごめんなさい。</li> <li>・ぼくも、お母さんみたいに家族のためにできることをやるよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教材文の視聴で、挿絵等を黒板に掲示し、内容を整理する。</li> <li>●だいすけがお小遣い欲しさに軽い気持ちで請求書を書いたことを押さえる。</li> <li>●だいすけは、家族よりも自分への思いが強いことに気付かせる。</li> <li>●自分の行動の意味をよく考えず、思い通りになったことを喜ぶだいの気持ちを理解させる。</li> <li>●ノートの吹き出しにだいすけの気持ちを書かせる。挿絵のだいすけの表情にも着目させる。</li> <li>●ペアで考えを伝えさせ役割演技に抵抗なく入れるようにする。</li> <li>●役割が分かるプラカードを用意し、臨場感を出させる。</li> <li>●演じた児童、見ている児童双方に考えや感想を比較・検討させることで、多角的・多面的な考えを深められるようにする。</li> <li>●母親役は、教師が行い、だいすけの葛藤を引き出せるようにする。</li> </ul>
<p>○だいすけのお母さんへの気持ちは、どのように変わりましたか。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さん、今までたくさんのかんことをしてくれてありがとう。</li> <li>・これからは、家族みんなのかんことを考えてお手伝いをするね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●役割演技後のだいすけの心情の変化を考えさせることで、家族には感謝の気持ちをもって接することが大切だと気付かせる。</li> </ul>
<p>3 本時の振り返りをする。 ○これから家族の一員として、どのような気持ちで生活していきますか。</p>	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからは、家族のためにお手伝いをたくさんしたい。</li> <li>・感謝の気持ちをもって「ありがとう」を言う。</li> <li>・家族みんなに優しくする。</li> <li>・家族に面倒をかけないように自分でできることは、自分でするようにしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●導入で捉えた家族への思いを振り返り、これからはどのような気持ちで家族の一員として接していくかを考えさせる。</li> <li>●お互いの考えを共有させることで、見つめ直したり深めたりして自己を振り返らせる。</li> </ul>

(4) 評価の視点

- 役割演技により、だいすけの立場を演じたり友達の演技を見て考えたりすることで、家族の一員として協力し合うことについて、多角的・多面的な見方へと発展しているか。
- 役割演技により、母親の請求書の意味を考えることで、家族の一員として協力し合うことについて、自分自身との関わりの中で深めているか。

指導例：主題名 家族できょうりよくし合うこと C-(15)家族愛、家庭生活の充実  
教材名 『お母さんのせいきゅう書』（日本文教出版）第3学年

ねらい：役割演技により、母親からの請求書を見ただけの気持ちを考えることを通して、  
家族の一員として進んで楽しい家庭を作ろうとする態度を育てる。

過程

主な学習活動（○発問 ◎中心発問 ◇問い返し）

指導のポイント

導入

1. 本時で扱う道徳的価値を想起し、問題意識をもつ。

○家族がいてよかったと思うのは、どのような時ですか。理由も考えましょう。

S：食事や洗濯をしてくれる時。(理)：自分ではできないから。

S：好きな物や必要な物を買ってもらった時。(理)：お金を持っていないから。

S：勉強を教えてもらう時。(理)：分からないままだと困るから。

「家族」で大切なことは、何だろう。

問題意識

○アンケート結果を提示し、家族にたくさんのことをしてもらっていることに気付かせる。

展開

2. 中心的な教材によって、本時で扱う道徳的価値の追求を行う。

○だいすけは、どうして請求書を書いたのでしょうか。

S：お手伝いをしたから、お金をもらいたい。

S：欲しい物があるから、お手伝いをしてお金を貯めたい。

S：400円ならくれるかな。

○400円を受け取っただいすけは、どのような気持ちになったでしょう。

S：やったー！ ラッキー！本当にもらえるとは思わなかった。

S：また請求書を書こう！

◎だいすけは、お母さんからの請求書を読んでどのような気持ちになったでしょう。だいすけになりきって考えてみましょう。

【役割演技】

S：お母さん、ごめんなさい。400円は返します。

◇400円欲しかったんだから、よかったね。

S：もらっちゃいけない。お母さんは、ぼくのためにいろいろしてくれていたから。

S：お母さんは、なぜ0円なのですか。

◇なぜ0円なのでしょう。○○君は、お母さんから請求書もらったことがありますか。

S：ないよ。

◇なぜお母さんは請求書を書かないのですか。なぜだいすけは、書いたのですか。

S：お母さんは、家族みんなのことを考えていろいろやってくれていたんだね。ありがとう。

S：ぼく（だいすけ）は、自分の得になることしか考えていなかった。ごめんなさい。



<ペアで活動する児童>



<役割演技をする児童>

中心発問

○挿絵とあらすじを掲示し、教材文の内容を理解させる。  
○挿絵の表情に注目させ、だいすけの気持ちの変化に気付かせる。

体験的な活動

○役割演技では、役割が分かるプラカードを用意するなど、雰囲気をつくり、臨場感を出す。  
○演じた児童、見ていた児童双方での考えや感想を話し合わせ、学級全体を巻き込むようにする。

役割演技の手順

- ①吹き出しにだいすけの気持ちを書かせる。
- ②抵抗感を除くために、ペアで考えを伝え合わせる。
- ③役割演技を行わせる。
- ④演じた児童、見ていた児童双方の考えや感想を話し合わせる。

問い返し（◇）

○発言や行為の違いから、多角的に価値を捉えさせるために、発言や行為の理由を問い返すようにする。

振り返り

○導入で捉えた家族に対する思いを振り返り、どのような気持ちで家族の一員として接していくかについて考えさせる。  
○お互いの考えを共有させることで、見つめ直したり深めたりして自己を振り返らせる。

終末

3. 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

○これから家族の一員として、どのような気持ちで生活していきますか。

S：家族にたくさんのことをしてもらっていたことが分かった。これからは、家族のためにお手伝いをたくさんしたい。

S：自分でできることは、自分でするようにしたい。

S：家族みんなに優しくしたい。

S：感謝の気持ちをもって「ありがとう」を言いたい。

評価の視点

- ・ 役割演技により、だいすけの立場を演じたり、友達の演技を見て考えたりすることで、家族の一員として協力し合うことについて、多面的・多角的な見方へと発展しているか。
- ・ 役割演技により、母親の請求書の意味を考えることで、家族の一員として協力し合うことについて、自分自身との関わりで深めているか。